貝塚市新庁舎整備事業市民ワークショップ　ニュースレター1号

貝塚市の市役所本館は、昭和40年に建設されてから53年になります。建物や設備の老朽化が進み、耐震強度についても防災拠点施設として必要な強度を満たしていません。また、市民福祉センターや教育庁舎等についても同様に老朽化が進んでいます。

そこで、市役所の庁舎が防災拠点として必要な機能を担い、また、市民の利便性を向上させるため、現在、新庁舎整備事業に取り組んでいます。

本事業において、新しい庁舎の考え方の基準となる、庁舎計画を策定するにあたり、公募3名、市内各種団体の推薦12名で選ばれた15名の市民ワークショップ委員の皆様から、利用者の立場で新庁舎に求められる機能等について意見を出し合っていただく市民ワークショップを開催します。

第1回市民ワークショップ

平成30年7月21日土曜日

テーマ　2060年の貝塚市での暮らしを考える

第2回市民ワークショップ

平成30年8月25日土曜日

テーマ　市民と貝塚市役所の関係を考える

第3回市民ワークショップ

平成30年9月22日土曜日

テーマ　貝塚市役所を考える

市民ワークショップでは、現在世代の立場、将来世代の立場それぞれの目線で、社会のために取り組んでおくべき施策を考えるフューチャーデザインという考え方を基本に、過去、現在、そして将来における貝塚市での暮らし、考えた貝塚市での暮らしから市民と市役所の関係、市民と市役所の関係から新庁舎のあり方について検討します。

頂いたご意見は、これからの庁舎計画策定にあたっての参考とさせていただきます。

市民ワークショップ委員集合写真を掲載。

第1回市民ワークショップを開催しました

7月21日土曜日に、貝塚市新庁舎整備事業第1回市民ワークショップを開催しました。

はじめに、委員一人ひとりに藤原市長から委嘱状が手渡されました。

その後、3つのグループに分かれ、テーマ1　私たちにとって貝塚市とはなんだろう、テーマ2　2060年の貝塚市での暮らしを考えるについて話し合いました。

ワークショップテーマ1　私たちにとって貝塚市とはなんだろう

テーマ1　私たちにとって貝塚市とはなんだろう、では、3つのグループに分かれ、はじめに、自己紹介を兼ねて、これからも引き継いでいきたい貝塚のこと、もの、できごと、思い出を話して頂きました。

私たちにとって貝塚市とはなんだろう

これからも引き継いでいきたい貝塚市のこと、もの、できごと、思い出

A、B、Cグループで挙がった主なキーワードを下記にまとめます。

注意　紙面の都合上、頂いたご意見の一部を掲載しています。

子育て、福祉、活動等に関するもの

子育てしやすいまち、子育てサークル、社会教育、市独自の福祉の取り組み、ボランティア、多様な市民のまち、市民活動が活発、市民の必要なことに取り組むまち、人柄のよいまち

野球場　など

土地、自然等に関するもの

災害に強いまち、地盤がよい、適度な田舎、細長いまち、海側と山側、二色の浜、アユが泳いでいる川、ハクセンシオマネキ、ブナの原生林、里山再生　など

歴史、文化、交通等に関するもの

水間観音、願泉寺、孝恩寺、釘無堂、重要文化財、だんじり、太鼓台、夏祭り、秋祭り

水間鉄道、福祉タクシー、まちなかアートミュージアム　など

ワークショップテーマ2　2060年の貝塚市での暮らしを考える

次に、市民ワークショップにおいて、意見交換を促進し、会を進行する、ファシリテーターの若本 和仁准教授から、2060年の社会状況等について、説明がありました。

ファシリテーター　若本 和仁准教授

大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻からの情報提供

プロフィール

専門分野は、建築計画、設計、環境デザイン、設計プロセス等。

庁舎設計プロポーザルやPFI事業の選定審査会委員等、選定委員会やワークショップにおける実績多数。

2060年の社会状況等

2060年の社会状況等を悲観的に予想した場合、シリアスストーリーと楽観的に予想した場合、ドリームストーリーの2つの未来予想について、生活像、環境、インフラ、教育等のテーマごとに紹介しました。

テーマ2　2060年の貝塚市での暮らしを考える、では、今から先の未来、2060年の貝塚市での暮らし、2060年の貝塚市に求められるもの、2060年におけるまちづくりの関わり方について、フューチャーデザインといった考え方を基本にして話し合っていただき、3つのグループから、主な意見を発表していただきました。

2060年の貝塚市での暮らし予想

シリアスストーリーとドリームストーリーの2つの側面から考えました

2060年の貝塚市での暮らしを考え、シリアスストーリーとドリームストーリーの2つの側面から、子育て、教育、高齢福祉、障害福祉、医療、環境、コミュニティ、文化、安心、安全、交通等について話し合いました。

注意　紙面の都合上、頂いたご意見の一部を掲載しています。

Aグループ　主な意見

シリアスストーリー

医療

病院に行けないお年寄りが増える

医療費がかさむ

高齢福祉

介護サービスを行うヘルパーが減る

子育て

子どもが減る

教育

学校の統廃合が進む

コミュニティ

お祭りの担い手がいなくなる　など

ドリームストーリー

障害福祉

障害のある方も働く場所や機会が増える

子育て

自然の遊び場が増えて子どもが元気になる

働く場所と子育てする場所が近くなっている

交通

車が自動運転になっている

コミュニティ

地域コミュニティが復活し、お年寄りが元気に生活している

農林水産業

農業が法人化している　など

Bグループ　主な意見

シリアスストーリー

子育て

三人兄弟が多かったのが、一人っ子が多くなっている

コミュニティ

地域コミュニティが希薄化し、回覧板がまわらなくなっている

環境

川や海の水がきれいになっているが、きれいになりすぎることで生き物が減っている　など

ドリームストーリー

医療

感染症は予防注射で回避している

障害福祉・高齢福祉

発達障害の研究が進んでいる

それぞれに合った働き方ができるようになっている

補助ロボットが普及している

子育て

貝塚が子育て世代に選ばれるまちとなっている

環境

海がきれいになっている　など

Cグループ　主な意見

シリアスストーリー

子育て・教育

少子化により、子ども会がなくなっている

子どもの遊び場がなくなり、コミュニケーション能力が下がる

コミュニティ

祭りの担い手がいなくなり、他の市町村と協力して行っている

必要のない組織が消滅していく

文化

文化財を維持するのが、難しくなっている　など

ドリームストーリー

交通

水間鉄道は変わらず走っている

高齢福祉

老人クラブは賑やかに活動している

障害福祉

誰もが参画する社会になっている

コミュニティ

お年寄りと子どもをつなぐ仕組みができている

国際交流の会員は増えている

安心安全

海水を真水に変える技術ができている　など

発行日　平成30年8月7日

発行者　貝塚市　総務市民部　総務課

お問合わせ

電話072-433-7073

代表ファックス072-433-7511